

## 6月のお知らせ

3月末に創刊準備号を発行した「すがもらいぶらり」ですが、その後の新型コロナウイルスの影響により、次号を皆様にお届けすることができませんでした。

自由に図書館内に入っていただける日は、少し先になってしまうかもしれませんが、

**「今できるサービスを実践に」**

ご提供していきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

### 通常開館時の予定

※状況により変更の可能性があります。

- <日曜> 新刊本を出します。  
新刊コーナーにご注目！
- <火曜> 第3火曜日 11時から、赤ちゃん向けお話を開いています。
- <水曜> 毎週 3時30分から、幼児から小学生低学年向けのお話を開いています。

### 前館長からのメッセージ

今年は桜の開花宣言が例年になく早く出されましたが、雨・風・雪にもよく耐えて、3月末になっても咲きほこっています。まるで、私たちに対する応援花のようです。この号が発行される頃には世の中は落ち着いているでしょうか。図書館には人間が生きていくために必要な様々な知恵や情報が埋まっています。どうぞ桜咲く図書館へ一度ご来館ください。  
**(3月末に書いたものです。)**

## 巣鴨図書館 まめ知識

### 「明治女学校」資料

2階の窓側ガラスキャビネットに、「女学雑誌」があります。

#### ①明治女学校とは？

明治18年、日本人の手で創られた5番目の女学校として九段下で開校した明治女学校は、29年に火災に遭って、都電庚申塚駅の踏切を越えてすぐ左に移動してきました。41年に閉校したのでわずか23年間の歴史ですが、「明治の理想郷」と言われるような文学的浪漫的な学校と言われています。

#### ②女学雑誌とは？

日本で最初の婦人誌『女学新誌』（明治17年刊）を母体として、明治18(1885)年から37(1904)年まで発行されたキリスト教思想に基づく啓蒙婦人誌で、後に「文学界」につながりました。

#### ③所蔵状況と使用方法

巣鴨図書館には、女学雑誌の復刻再販版が、第1号から、第526号まで所蔵があります。こちらは、貸出しはできませんが、館内での閲覧は可能ですので、カウンターまでお申し出ください。

### 参考文献

- 『ぶらり中山道巣鴨』 豊島区 (910.2 イ)
- 『明治女学校の研究』 慶応通信 (376.4 ア)
- 『「女学雑誌」と欧化』 森話社 (051 オ)



明治女学校コーナー  
詳しくは「まめ知識」  
を見てください。

新型コロナウイルス感染拡大による国の緊急事態宣言以降、図書館を含めた区の施設休業等により、区民の皆様にはご不便をおかけいたしております。

この間の休館では、図書館に対するみなさまの期待の大きさを改めて認識させていただく機会となりました。先が見えない日々の中で、図書館の利用を希望される皆様の声にお応えすることができず、職員一同、もどかしい気持ちでございました。

この難局が収束し、活気あふれる巣鴨図書館の姿を一日も早く取り戻すことができることを強く、強く願っています。(館長)



じぞうくん  
今一番の願いは、  
新型コロナウイルス  
が、落ち着くことです！

イラスト作 S

## じぞうくんの食レポリレー



鶯鴨図書館で働く人の食事情を本と絡めながら語り、リレー方式で紹介していくコーナーです。

『ラブおばさん』をご存じですか？

去る2月13日、94歳で亡くなられた料理研究家、城戸崎愛さんです。

昭和46年から50年まで、NHKの「今日の料理」にも出演されていたので、ご存じの方もいらっしゃるかと思います。

今を遡ること30年以上前、結婚のお祝いに『ラブおばさんのお嫁さんクッキング』なる料理本をいただいた新米主婦の私は、この本のおかげで料理が好きになりました。今でも大切にしています。

残念ながら、当時の本は豊島区には所蔵がありませんが、晩年に書かれた2冊の本からはお料理に対する「愛」が感じられます。

※下記に紹介しました。

色々大変なことが起きていますが、先生の言葉

『生涯現役でいられる秘訣は食と好奇心にあり』

をこんな時だからこそ、忘れずにいられたらと思います。

「食」で免疫力を上げて皆で元気に乗り切りましょう!!!

( 食いしん坊司書M )

テーマに合わせた  
図書館蔵書を  
ご紹介

### お役立ち本

『食は生きる力 91歳 現役料理家の命のレシピ』 マガジンハウス  
(中央図書館所蔵)

『もうせん切り イヤになっちゃった!』  
集英社 (目白図書館所蔵)

## じぞうくんのそばくな疑問



初めまして、ぼくはじぞう。  
心にうつりゆく  
ちょっとした疑問を  
ここでつぶやいていくよ。

学校がお休みになってしまったじぞうくん。「パンデミック」という言葉が気になるので、調べることにしてみたいですよ。

『ウイルスのせいで、学校が休みになっちゃった。それにしても、パンデミックってどういう意味なんだろう？

医学なら4類だけど、491の医学読み物とか、498の感染症対策とか、色々分かれているみたいだね。

まずは「ウイルス」って本、「パンデミックという言葉が直訳すると感染爆発ということである」という部分の説明が詳しいな。「人類の歴史において、数十年ごとに経験されている新型インフルエンザの発生に伴う大流行のことをさす。」という記述があるね。この本はパンデミックから身を守ることをテーマに書いたものだから、具体的によくわかるなあ。

ただし、2008年に出版されたものだから、情報が古いよね。医学の本なんかは、最新情報を知りたいし、正しいものでないと困るから、情報源も確認しないとね。他の資料には「一度に複数の大陸におよぶ感染症の大流行」という記述もあるね。

ウイルスは目に見えないし、正体がわからなくて怖いけど、正しい知識を学んで、冷静に行動することが大切だよ。歴史は繰り返すっていうから、先人の知恵を学ぶために、次は歴史の本でも読もうかな〜。』

### じぞうくんが読んだ本はこちら

『ウイルスーミクロの賢い寄生体ー』  
丸善出版 (491.7 ク)

『パンデミックから身を守るー新型インフルエンザ対策ー』日刊工業新聞社(498.6 ア)

## じぞうさんぽ

### <秋田・青森突貫お花見ツアー>

2019年4月某日。角館は快晴だった。駅前桜祭りの案内を入手し、まずは桧木内川へ。堤に2kmに渡ってびっしりと植えられたソメイヨシノは、三分咲きといったところ。ちょっと悔しいが自然には逆らえない。そのまま川沿いの遊歩道を抜け、武家屋敷通りへ。幸い、枝垂桜はどこも見ごろ。町中が桜色の滝に覆われているかのような、華やかかつ可憐な光景だった。

3時間ほどの散策の後、秋田内陸線に乗り込み、弘前へ移動。JR奥羽線への乗換駅である終点鷹巣駅まで、町⇄里山⇄山間部とひたすら繰り返して2時間余。驚いたことに、山中にはまだ雪が残っていた。桜と雪が同じ日に見られるとは、さすが雪国秋田県である。

翌日は朝から弘前公園へ。こちらのソメイヨシノは、ありがたいことにほぼ満開だった。大量の桜はよく雲海に例えられるが、現物を見ると確かにその通りとしか言いようがない。ずっと憧れていた弘前の桜。今日は一日、桜に捧げる所存である。弘前城を皮切りに2時間ほど見どころを廻った後、公園に隣接する藤田記念庭園の洋館の喫茶室で、弘前名物アップルパイを堪能。再び公園に戻り、弘前城植物園へ。これがなかなかの穴場。季節柄、桜園では見たこともないような様々な種類の桜が妍を競っており、女王ソメイヨシノも数多ある品種のうちの一つでしかないのだと再認識させられた。

日没後、夜桜見物のため、またもや弘前公園へ。ライトアップされた桜並木がお堀の水面に映え、まさに異世界の絶景。二日がかりの突貫お花見ツアーは、こうして感嘆のうちに終了したのであった。

( A )

### ともぼん お供本

旅のお供に  
おすすめのお供本  
蔵書をご紹介

『サクラ・さくら・桜ー写真集ー』  
ブティック社 (748 サ)  
『プラタモリ 14』 KADOKAWA  
(291.0 フ)